

## 平成30年度学校経営計画

平成29年度～平成31年度

校番	13	学校名	海田高等学校	校長氏名	富永 六郎	◎・定・通	◎・分
----	----	-----	--------	------	-------	-------	-----

### 1 ミッション(地域社会における自校の使命)

全人教育を実践し、高い志を持ち続け、グローバルな視野で社会に貢献する人間性豊かな人材を育成する。

### 2 ビジョン(使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像)

3つの校訓のもと「賢く(知)・豊かに(徳)・遅しく(体)」を体現し、主体的に学びに向かう生徒を育成する。  
 具体的には、  
 (1) 自らの将来について高い志を掲げ、その実現のために惜しみなく努力する生徒を育て、生徒の進路目標を叶える学校  
 (2) 何事にも自律的・協働的・創造的に取り組み、困難な課題でも諦めずやり抜く生徒を育て、生徒の人間性を高める学校  
 (3) 他者を気遣い、切磋琢磨しながら、新しい価値の創造を目指して社会に貢献できる生徒を育て、生徒の社会性を養う学校

### 3 環境分析

#### (1) SWOT分析

<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 40%;">内部環境</div> <div style="width: 30%;"><b>強み(S)</b></div> <div style="width: 30%;"><b>弱み(W)</b></div> </div>	・高い進学意識。 ・クラブ数(文化系13・体育系13)が豊富。 ・独自性のある学校行事や生徒の主体性を伸長する特色ある学校行事(体育祭、文化祭、クラスマッチ、合唱祭等)。 ・家政科行事が充実(ファッションショー、海高レストラン等)。 ・資格・検定取得へ向けた意欲的な取組と「日本一」の実績。 ・指導力のある教員、組織的な授業づくりの取組。	・家庭学習時間が不十分。 ・3年次の学力の下降傾向。 ・入学者の目的意識、基礎学力が低下し、コミュニケーション力や自律性に課題を持つ生徒が増加した。 ・天候や交通状況の影響で遅刻者数が増加する。遅刻者が0になる日が少ない。 ・各部、各学年、各教科の経営計画が明確でない。 ・内向きで果敢に挑戦しようとする意識が低く、本番に弱い。
	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 40%;">外部環境</div> <div style="width: 30%;"><b>機会(O)</b></div> <div style="width: 30%;"><b>活用</b></div> </div>	積極的攻勢(強みを生かして勝機を勝ち取る) ・「学びの変革」を軸に授業改善を進め、生徒の主体性を高める。 ・家政科の課題研究のノウハウを普通科にも反映させる。 ・近隣中学校との学校行事や部活動等の交流を増加させ、活躍する本校生徒の姿を直接見せる。
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 40%;"><b>脅威(T)</b></div> <div style="width: 30%;"><b>機会創出</b></div> <div style="width: 30%;"><b>克服戦略</b></div> </div>	差別化(強みを生かして脅威を機会に変える) ・進路実績を向上させるとともに、部活動を活性化させる。 ・進学実績において強みを生かせるように、丁寧で粘り強い進学指導を行う。 ・地域の活動を周知し、積極的な参加を促す。	専守攻防(弱みから最悪のシナリオを避ける) ・教育相談活動の充実を図り、生徒への支援体制を強化する。 ・先輩や上級生との交流の機会を増やし、生徒の自己肯定感を高める。 ・学校外での服装やマナーについて学年集会を通して指導の徹底を図る。

#### (2) 戦略の決定

- 高い目標に挑戦し、夢の実現をあきらめない生徒～生徒の学力を高め、進路目標の達成を組織的に支援する学校  
 「主体的で対話的な深い学び」を推進することで、生徒の自主性、自律性、協働性を高め、ひいては学びに向かう力・人間性を強化し、実社会で通用する人材育成にむけての教育活動を行う。  
 スモールステップの目標として全国模試を定めさせ、時期や出題範囲・傾向などの生徒への提示を、時宜を逃さずに行い、計画的な対策に取り組めるよう各教科と連携して指導する。
- 自律した行動を取り、他者と協働できる生徒～社会で生き抜くために必要な資質・態度を育成する学校  
 生徒が活躍する機会を増やすため、様々な対外的な活動に参加させる。  
 規律ある学校生活を送らせるとともに、学校行事に積極的に取り組ませることにより、豊かな人間性を育成する。
- 成長する組織として研修を重ね、地域から信頼される開かれた学校

教職員は学び続ける者として日々研鑽を積み、授業改善に努める。また、よりよい授業づくり・学校づくりに向け、協働して取り組む組織の形成に取り組む。

業務改善と校務の効率化を図り、教育環境の整備と働きやすい職場環境づくりを推進する。

#### 4 目標の設定

学校経営目標						
達成目標	評価指標	実績値	目標値		担当部等	
		29年度	30年度	31年度		
1 高い目標に挑戦し、夢の実現をあきらめない生徒～生徒の学力を高め、進路目標の達成を組織的に支援する学校						
生徒の学力が向上し、進路目標を達成している	現役生普通科国公立大学合格者数 (広島大学合格者数)	56人 (7人)	80人 (13)	85人 (16)	進路指導部 各学年 各教科	
	・2年偏差値平均 50 以上の人数 (2月) ・1年偏差値平均 50 以上の人数 (1月)	136人 157人	145人 160人	160人 170人		
生徒が主体的に学ぼうとしている	1日当たりの平均家庭学習時間 (2年・1年)	142分 154分	180分 150分	180分 150分	2学年 1学年	
	・1級3種目合格率 ・1級3種目受験者の割合	76.8% 94.5%	75%以上 90%以上	75%以上 90%以上	家庭科	
学びの変革が推進され、生徒の意識・行動が 変容している	「学習したことの中で、もっと学 びたいことがある」と回答する生 徒の割合	56.4%	70%	80%	教務部 教育研究部 各教科	
	「ペア・グループ等で互いに考え を伝え合いながら学習する方がよ くわかる」と回答する生徒の割合	65.4%	70%	80%		
2 自律した行動を取り、他者と協働できる生徒～社会で生き抜くために必要な資質・態度を育成する学校						
生徒は心身の自己管理ができ、自律している	遅刻ゼロの日の日数	8回	30日	40日 以上	生徒指導部	
一人一人の生徒に応じた相談体制が機能して いる。	支援を必要とする生徒に対する検 討会議等をすすめる、分掌会で毎月 確認する。	4回	8回	10回	保健体育部	
生徒は異文化間協働活動に興味・関心を持 ち、グローバル社会を意識した行動ができる	将来、留学したい又は海外で働か たいと考える生徒の割合	28.3%	35.0%	40.0% 以上	教育研究部	
3 成長する組織として研修を重ね、地域から信頼される開かれた学校						
魅力ある学校づくりを推進し、「学びたい学 校」として信任されている。	入学者選抜の志願倍率 (普通科 選抜Ⅰ・Ⅱ)	2.5倍 1.3倍	2.0倍 1.5倍	2.0倍 1.5倍	総務部 教育研究部	
	(家政科 選抜Ⅰ・Ⅱ)	2.1倍 1.6倍	2.0倍 1.5倍	2.0倍 1.5倍		
常に資質・能力の向上を図り、授業の工夫・ 改善を図っている	4段階評定尺度法による授業評価 平均	3.3	3.3	3.3以上	教務部 教育研究部 各教科	
	「学びの変革」を意識した授業づ くりを行っている」と回答する教職 員の割合	86.3%	90%以上	100%		
業務改善が進み、学校運営に組織的に取り組 む態勢が整っている	学校経営目標の達成に向け、取組 の立案等に教職員も参画している と回答する教職員の割合	78.0%	90%以上	100%	各分掌	
	日々の業務の中で充実感を得られ ている。	82.0%	90%以上	100%		

5 行動計画

学校経営目標			
達成目標	本年度行動計画	中期行動計画	担当部等
1 高い目標に挑戦し、夢の実現をあきらめない生徒～生徒の学力を高め、進路目標の達成を組織的に支援する学校			
学力が向上し、進路目標を達成している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な家庭学習時間が増加する授業づくり、課題提示をする。</li> <li>模試結果を活用した授業・補習を行い、全体的な成績向上を図る。</li> <li>センター試験受験者だけでなく、5教科受験者を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科会、学年会、進路指導部を中心に模試結果を共有し、組織的に指導する。</li> <li>成績上位層に対する指導を工夫し、全体としての成績向上を図る。</li> </ul>	進路指導部
生徒が主体的に学ぼうとしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主学習時間プランの活用し、個人面談を行って、学習時間を増加させる。</li> <li>課題発見、問題解決学習を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自律的な学習習慣を確立され、時間確保の段階から質的な改善にシフトさせる。</li> <li>対話的、協働的な学びを定着させる。</li> </ul>	2学年 1学年
	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本となる知識と技能を定着させる。</li> <li>全国高等学校家庭科技術検定和服1級、洋服1級、食物調理1級の受験意欲を高める指導を行う。</li> <li>専門的な知識・技術を活用し、地域に貢献する行事を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門的な知識・技能の定着へ意欲的に取り組む生徒を育成する。</li> <li>6割以上の生徒が全国高等学校家庭科技術検定和服1級・洋服1級、食物調理1級に合格できる指導を継続する。</li> <li>専門的な知識・技術を活用し、地域に貢献する人間性豊かな生徒を育成する。</li> </ul>	家庭科
学びの変革が推進され、生徒の意識・行動が変容している	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科会を毎週開催し、組織的に主体的な学びを促す授業づくりを推進する。</li> <li>教科主任会議を毎週開催し、教科間の連携を強化する。</li> <li>授業において、目標の確認・振り返りの場面を設定する。</li> <li>定期試験において少なくとも1題以上の活用問題を作成し、各教科で協議をし、その結果を教科主任会議で報告する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次期学習指導要領を見据えたカリキュラムマネジメントを推進する。</li> <li>中核教員研修の内容を共有し、各教科の授業づくりに反映させる。</li> <li>大学入試問題におけるB問題(活用問題)を分析し、授業や補習に活用する。</li> <li>教科主任のリーダーシップが発揮され、教科ごとの研修会や分析会、協議会增加させる。</li> </ul>	教務部 教育研究部 各教科
2 自律した行動を取り、他者と協働できる生徒～社会で生き抜くために必要な資質・態度を育成する学校			
生徒は心身の自己管理ができ、自律している	<ul style="list-style-type: none"> <li>校門指導を継続して行い、年間遅刻回数によって、担任・学年会・生徒指導部による面接を行う。</li> <li>ベルスタートにより授業遅刻をさせない取組を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校で学校遅刻・授業遅刻をとものにゼロにする。</li> </ul>	生徒指導部
一人一人の生徒に応じた相談体制が機能している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象の生徒に対しては、スクールカウンセラーや特別支援コーディネーター等複数の教員で組織的に複数回面談を実施する。</li> <li>支援が必要な生徒について、全体に周知・共有する会議を年度初めと2学期の2回行う。</li> <li>特別な支援が必要な生徒には、個別の指導計画を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談や特別な支援が必要な生徒に対しては、スクールカウンセラーや特別支援コーディネーター等複数の教員で組織的に面談等を実施し支援体制を確立する。</li> </ul>	保健福祉部
生徒は異文化間協働活動に興味・関心を持ち、グローバル社会を意識した行動ができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際交流のイベント等を積極的に紹介するとともに、留学を奨励する。</li> <li>留学体験者の報告会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実用英語技能検定受験者、合格者が増加させる。</li> <li>短期、長期留学者数を増加させる。</li> </ul>	教育研究部
3 成長する組織として研修を重ね、地域から信頼される開かれた学校			

<p>魅力ある学校づくりを推進し、「学びたい学校」として信任されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内の内容を充実させ、学校の魅力を中学生にアピールする。</li> <li>・学校の情報を積極的にホームページに掲載することとし、最新の情報を1週間以内に発信する。</li> <li>・部活生徒の活躍の場を校内外に広く設定する。</li> <li>・表彰式、壮行式等を充実し、生徒の活躍の周知を行う。</li> <li>・オープンスクールや個別の学校説明会を実施し、その際の本校生徒の活躍の場を設ける。</li> <li>・教職員による学校訪問を実施し、中学校との連携を強化する。</li> <li>・部活動や学校行事等について海田町内の小中学校との交流を増加させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生のニーズに基づき、学校案内の紙面構成を刷新する。</li> <li>・毎月の定期更新日を設け、最新の情報を発信し公開性を高める。</li> <li>・県大会、中国大会、全国大会で活躍する生徒数を増加させる。</li> <li>・個別の中学校説明会、塾説明会を求められるケースが増え、その求めに対応できる。</li> <li>・生徒ボランティアを増加させ、会の運営を助ける生徒数を増やす。</li> </ul>	<p>総務部 生徒指導部 教育研究部</p>
<p>常に資質・能力の向上を図り、授業の工夫・改善を図っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科主任会議を充実し、授業評価結果の分析及び改善の方策について継続的に協議を重ね、教科主任が各教科会をリードする。</li> <li>・2回の相互授業観察期間を設定し、全員が学習指導案を作成する。</li> <li>・少なくとも1回は、担当教科以外の教科の授業を観察する。</li> <li>・1年間の研究の成果を研究紀要にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科で積極的に授業評価結果の分析及び効果的な方策を協議し、改善に取り組む。</li> <li>・日常的に相互授業観察が行い、組織的に授業づくりを行う体制を整える。</li> </ul>	<p>教務部 教育研究部 各教科</p>
<p>業務改善が進み、学校運営に組織的に取り組む態勢が整っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌で学校課題に応じた研修を企画し、実施する。</li> <li>・業務改善を推進し、教職員のアイデアを聴き、検討する場面を設ける。</li> <li>・面談等を通して、学校経営計画の進捗状況を定期的に確認し、各種会議で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分掌の研修機能を高め、OJTに組織的に取り組む。</li> <li>・業務のスクラップアンドビルドを進め、生徒と向き合う時間を確保する。</li> <li>・学校評価結果に基づいて、各部分で改善提案を検討する。</li> </ul>	<p>各分掌</p>